

電子ジャーナルの大量ダウンロード事例について

医学部においても複数回発生している電子ジャーナルの大量ダウンロードについて、他機関などを含め、実際に発生している具体的な事例などをまとめました。事例の中には、本人の意思とは反して、大量ダウンロードとみなされるケースもありますので、よく御確認いただき、再発防止に努めていただけますようお願いいたします。

電子ジャーナルを利用する大前提として

特定雑誌の大量ダウンロード及び

機械的なダウンロードは禁止です！！

事例 1

- Webブラウザの「リンク先読み機能」により、利用者が意図せず、大量ダウンロードが発生してしまった。
- ☞ 「リンク先読み機能」では、ページの閲覧中にバックグラウンドでページ内のリンクへのアクセスが繰り返され、利用者が普段どおり使用していても、大量ダウンロード（アクセス）になることがありますので、機能を無効化してください。

事例 2

- 文献管理・論文作成支援ソフト（EndNote 等）を使用して、複数のPDFを一括して自動ダウンロードしてしまった。
- ☞ EndNote に取り込んだ文献情報から、文献のフルテキストを無料で取得できないか EndNote に検索させることができます。文献情報の選択数を確実に必要な件数のみ選択してから行ってください。選択数が多いと、大量ダウンロードとみなされることがあります。

事例 3

- PubMed・医中誌 Web などの検索結果を順番に短時間で大量ダウンロードした。
- ☞ ダウンロードする必要がある文献なのかよく判断することが大切です。また、順番にダウンロードを行うと、アクセス頻度が速くなるため、注意が必要です。

事例 4

- 論文検索結果を順番に閲覧していき、HTML形式のアブストラクトなどを過剰にアクセスした。
- ☞ 論文本文のPDFダウンロードだけでなく、HTML形式のアブストラクトにアクセスしても、出版社等の監視システムではダウンロードと感知される場合があります。事例3と同じくアクセス頻度が高くなる可能性がありますので、注意が必要です。

まとめ

利用者の意図しない場合でも監視システムでは感知される場合や、アクセス頻度が高く一定時間内に連続したダウンロードがあると、大量ダウンロードと判断されることがあります。利用に当たっては、その時に必要な文献のみを取捨選択していただき、適正な利用を心掛けてくださるようお願いいたします。